

異常確認の有無

工事との関連性

対策の検討

目視観察結果

・目視観察の結果、工事に伴う異常は確認されなかった。

・特になし

水質調査結果

詳細結果

クビレミドロ監視地点	[基準超過回数: St.1=2回(7.4~7.6mg/l) ・St.1=29日午前(7.6mg/l)、30日午前(7.4mg/l)
基準値 St.1~3: SS=7mg/l	
工事の濁り監視地点	
基準値 St.4~20: SS=11mg/l	・基準値を超える値は観測されなかった。
流入部負荷量の調査地点	・SS=11mg/lを超えた回数: St.21=47計測中46回(12.3~103.4mg/l) St.22=47計測中41回(11.1~84.0mg/l) St.23=47計測中40回(11.5~100.2mg/l)
流入水路部調査地点 (St.21、St.22、St.23) は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。	・St.21での最高値は30日午後(103.4mg/l)に観測された。原因として強い降雨により増水し、茶色の濁水が流れ出していた。 ・St.22での最高値は30日午後(84.0mg/l)に観測された。原因として強い降雨により増水し、茶色の濁水が流れ出していた。 ・St.23での最高値は30日午後(100.2mg/l)に観測された。原因として強い降雨により増水し、茶色の濁水が流れ出していた。

・基準値を超過した要因は、調査地点の水深が浅く(0.4~0.6m)、低潮位時により強風や降雨によって底質が巻き上がったことが影響していると考えられる。
なお工事箇所周辺の監視地点の濁り(SS)は基準超過が確認された地点よりも低い値であることから、工事による影響ではないと考えられる。

・流入水路部から降雨や生活排水などの濁水流入や、波浪による底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。

気象概況

基準値超過日の気象概況は以下のとおり。

- ・29日は南南西ないし南西よりの風が強く(最大風力4)、降水量は30mmであった。
- ・30日は西南西ないし南よりの風があり(最大風力2)、降水量は15.5mmであった。

(※最大風力は調査員による現場観測値)

工事実施状況

基準値超過日の主な工事実施状況は以下のとおり。

	29日	30日
イ中仕切工事	裏埋材投入・均し	裏埋材投入・均し
D護岸工事	石材均し	作業はなし



